

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-01-16-01
事務事業名	備前斎場維持管理事業	根拠法令・要綱等	備前市葬儀条例 備前市葬儀条例施行規則
事業開始年度	昭和46年度～	問合せ先	担当課(室) 環境課 職・氏名 衛生係長・森本和成 電話 64-1821
総合計画	大項目 基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり	
	中項目 基本施策	生活しやすいまちづくり	
	小項目 施策	火葬場・墓地	

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	祭壇・霊柩車・斎場を利用するすべての市民 斎場を利用する市外の利用者
目的 (何のために)	適正な火葬及び祭壇業務の執行。
行政活動 (どのような方法で)	適正に火葬を執行するために斎場・霊柩車等の維持管理を行う。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	葬儀を執行するにあたり、火葬炉施設の故障や職員の対応等により、利用者に不快感を与えない。

事業の実績						
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	火葬執行数	件	345	341	415	
	祭壇業務数	件	51	33	36	
	霊柩車運行数	件	11	12	15	
	火葬執行日数	日	215	218	233	
	改修工事費	千円	16,989	9,240	6,930	
	事業費	直接事業費	千円	26,045	18,112	15,521
		人件費	千円	15,263	14,195	13,181
		事業費計		41,308	32,307	28,702
	財源	国県支出金				
受益者負担		千円	5,584	5,019	6,104	
一般財源			35,724	27,288	22,598	
必要人員	人	2.65	2.45	2.29		
結果指標	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	火葬執行数	説明	1年間の火葬執行件数			
	結果指標量	件	345	341	415	
	対前年比	%	-	98.8%	121.7%	
	活動コスト	円	38,873,000	29,967,000	26,554,000	
単位当たりコスト	円	112,675	87,880	63,986		
結果指標	祭壇業務数	説明	1年間の祭壇業務数			
	結果指標量	件	51	33	36	
	対前年比	%	-	64.7%	109.1%	
	活動コスト	円	2,435,000	2,340,000	2,148,000	
	単位当たりコスト	円	47,745	70,909	59,667	

事業の成果			
成果指標名	火葬執行業務は、成果指標となる判断基準がないため。	式又は説明	事業費 / 備前地域世帯数
成果指標量	17年度	18年度	19年度
	3,817	2,973	2,650
対前年比		77.91%	89.13%
到達目標値	斎場運営コストの削減	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A~E>	A
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
妥当性の評価	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	火葬執行については、関係法令等に基づき適正で効率的に処理している。	
	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある		
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
行政活動	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	備前斎場は、移動から20年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。祭壇業務については、塵芥収集の職員で対応しているため祭壇業務当日の人員配置が難しい。備前斎場と日生斎場とは、使用料が異なるため見直しが必要である。	
	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		効率性評価<A~E>
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
コスト	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	備前斎場は、移動から20年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。祭壇業務については、塵芥収集の職員で対応しているため祭壇業務当日の人員配置が難しい。備前斎場と日生斎場とは、使用料が異なるため見直しが必要である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	備前斎場は、移動から20年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。祭壇業務については、塵芥収集の職員で対応しているため祭壇業務当日の人員配置が難しい。備前斎場と日生斎場とは、使用料が異なるため見直しが必要である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている		
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
職場	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	備前斎場は、移動から20年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。祭壇業務については、塵芥収集の職員で対応しているため祭壇業務当日の人員配置が難しい。備前斎場と日生斎場とは、使用料が異なるため見直しが必要である。	
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A~E>	B
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		課題認識
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	火葬執行については、死亡者の数により増減するため件数だけで判断するのは難しいが、施設利用者がある限り継続していく必要がある。祭壇業務については民間に同一のサービスがあるため徐々に業務の縮小が必要である。	
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	火葬執行については、死亡者の数により増減するため件数だけで判断するのは難しいが、施設利用者がある限り継続していく必要がある。祭壇業務については民間に同一のサービスがあるため徐々に業務の縮小が必要である。	
	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		
	<input type="checkbox"/> 事業の実施等を通じて市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量 415	結果指標量 36
成果指標量	斎場運営コストの削減	

総合評価		評価区分 <A~E>	B
施設の老朽化等により、施設の維持費は年々増加していくと思われる。現状では、コストの削減は難しい。祭壇業務については民間に同一のサービスがあるため徐々に業務を縮小して行く必要がある。備前斎場と日生斎場とで、使用料が異なるため統一する必要がある。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	祭壇業務の見直しについての検討	H20年度～	人員配置の改善
効率性	使用料の見直し	H20年度～	備前斎場と日生斎場の使用料を統一し、地域間格差をなくす。